別紙

「クロスサイト・スクリプティング（XSS）」の脆弱性の種類：

脆弱性の種類をリスト化している CWE[1]では、XSS の脆弱性は下記 3 種類に分類されています（図 1）。『DOM Based XSS』に関するレポートでは、このうちの DOM Based XSS の脆弱性について解説しています。

- Reflected XSS (or Non-Persistent)
- Stored XSS (or Persistent)
- DOM Based XSS

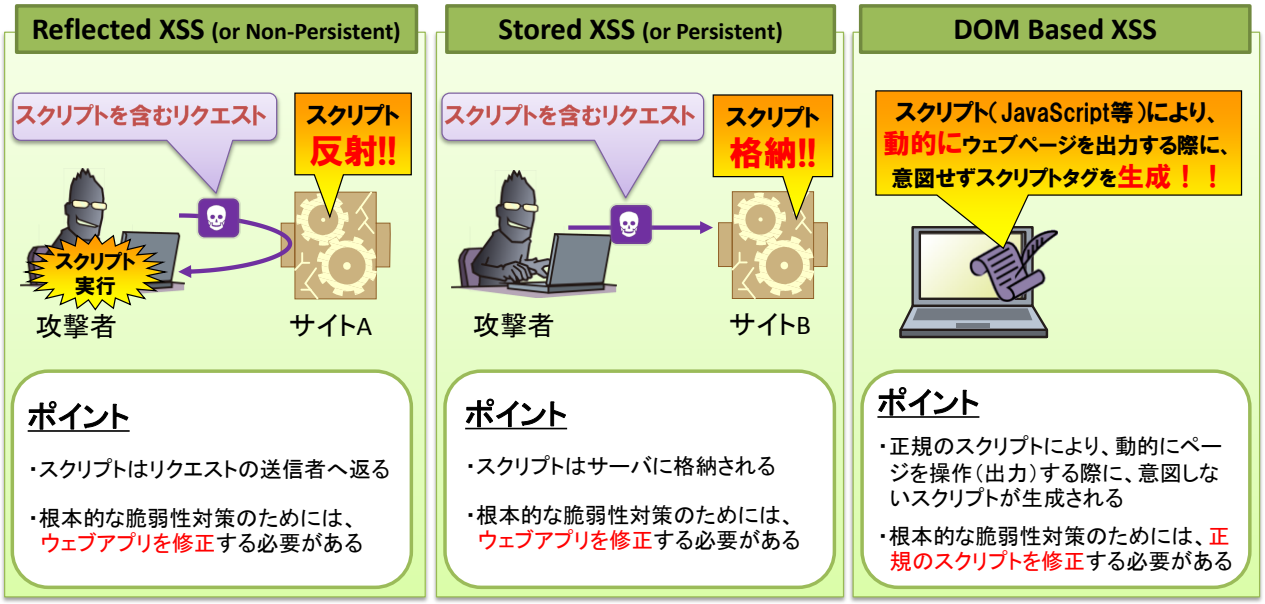

図 1 XSS の種類

■ Reflected XSS (or Non-Persistent)の説明

ユーザからのリクエストに含まれるスクリプトに相当する文字列を、ウェブアプリケーションが当該リクエストへのレスポンス（ウェブページ）内にスクリプトとして出力してしまうタイプの XSS です。スクリプトはリクエストの送信者へ返ることから、反射型クロスサイト・スクリプティング（Reflected XSS）と呼ばれています。

■ Stored XSS (or Persistent)の説明

ユーザからのリクエストに含まれるスクリプトに相当する文字列を、ウェブアプリケーション内部に永続的に保存し、保存した文字列をスクリプトとしてウェブページに出力してしまうタイプの XSS です。ユーザが当該ページを閲覧するたびに、ウェブアプリケーションに保存された文字列がスクリプトとして実行されることから、格納型クロスサイト・スクリプティング（Stored XSS）と呼ばれています。

■ DOM Based XSS の説明

ウェブページに含まれる正規のスクリプトにより、動的にウェブページを操作した結果、意図しないスクリプトをウェブページに出力してしまうタイプの XSS です。ウェブページを操作する際の取決めを DOM と呼ぶことから、このタイプの XSS は DOM ベースのクロスサイト・スクリプティング（DOM Based XSS）と呼ばれています。

---

[1] 情報処理推進機構：情報セキュリティ：共通脆弱性タイプ一覧 CWE 概説
http://www.ipa.go.jp/security/vuln/CWE.html